經濟闘爭に關する方針

一、ストライキの基本戰略について（第二分冊）

二、ゼネストに關する方針

A　ゼネストを敢行し得るための基本條件

(イ)ゼネストを敢行するのでなければ、爭議を勝たせることは出來ない、といふことは今日我々のあひだでは、既に常識になつてゐる。だが、それにも拘らず、今日まで、我國では、曾つてゼネストらしいゼネストが、敢行されたことがない。何故か？

(ロ)勞働者が闘爭を欲してゐないためか？斷じて否、個々のストライキは年々增加し、益々多くの勞働者が、闘爭に參加するやうになつて來てゐるのだ。あちらにもこちらにも血みどろの闘爭が展開されてゐるのに、何故それを統一することが出來ないのか？結局それは、左翼の組織が微弱で、指導能力がたらないからだ。

(ハ)ゼネストは計畫的闘爭である。それは大衆の中から自然發生的に生れて來る闘爭ではない。したがつて、個々の工場に如何に闘爭が捲起らうが、それを統一するところの主體が確立されてゐなければ、ゼネストは敢行されない。ゼネストを敢行し得るための最大の條件は、左翼の主體が確立されてゐることだ。

(ニ)我々のゼネストへの最大の對策は、わが總評議會の組織を、全國の大工場、大經營、大鑛山に確立し、その影響下に強力な戰闘的工場委員會を樹立することに在る。組織の問題を無視して、ゼネストの方針を論議することはナンセンスだ。だがこのことは、組織が確立してからでなければ、ゼネストの問題は問題にする必要がない」といふ意

味では斷じてない。ゼネストの問題をあらゆる場合に問題にし、それへの出來る限りの積極的準備活動をつゞけるやうな組合でなければ、組織を擴大させることも出來ないのだ。

B　當面何を爲すべきであるか？

(イ)全國的な、もしくは產業別な、ゼネストを目標として、當面我々は何を爲すべきであるか？我々の當面の任務を要約すれば左の通りである。

一、あらゆる大工場、大經營の中へ總評の基礎を確立すること、並にそしてそれを全國的產業別組合に結成することに努力すること。

二、あらゆる大工場、大經營の中へ戰闘的工場委員會の運動を卷き起すこと。

三、右の運動と關聯して、工代會議の運動を卷き起すこと。

四、あらゆる機會にゼネストの宣傳煽動を行ふこと

(ロ)第一、第二の問題に關しては、既に組織方針の中で述べた。玆では、第三、第四の問題について述べる。

(ハ)戰闘的工場委員會は、一工場を基礎とした左翼の大衆動員組織であるが、工代會議は、それらを地域的に、もしくは產業別的に聯結した組織である。

(ニ)この工代會議の基礎の上に立つことなくしては、如何なる政治闘爭の敢行も、如何なるゼネストの決行も、考へることは出來ない。それらは共に、全國の數百千の工場の大衆の蹶起を必要とする闘爭なのだから。

(ホ)かつて我國では、一九二七年秋の五法律獲得のための工代運動が、非常な進展を示した。現在のやうに、政治的にも經濟的にも、大衆の間に不平不滿がみち〳〵てゐるときには、我々のアジ、プロが徹底しさへすれば、工代運動を卷き起すことは、たとへ我々の組織が微弱であつても、決して不可能ではない。勿論、當面持たれるであらうところの工代會議は、戰闘的工場委員會の基礎の上に立つたものではなく、各工場の有志の參加によつて、成立するに相違ない。だが、さうした工代運動を通じて、各工場の內へ戰闘的工場委員會確立の氣運を持ち込むことも出來るし、